参考資料

2026年11月10日

茨木市長　様
茨木市総合保健福祉審議会 障害者施策推進分科会会長　様

ハートフル2階「地域2型」の廃止及び「3型」への移行案に反対し十分な審議と対応を求める請願書

1. 請願者

（氏名）　（住所）　（連絡先）

[redacted]

電話：[redacted]

2. 請願の趣旨

私たちは、ハートフル2階の「地域2型」の廃止及び「3型」への移行案について、強く抗議・反対し、再検討を求めます。

本施設を利用する障害者にとって、リハビリ機能や専門的な支援は、身体機能の維持・向上だけでなく、日常生活の継続や生活の質（ＱＯＬ）を守るうえでも重要な役割を果たしています。

利用者の生活や身体状況に大きな影響を及ぼす制度変更であるにもかかわらず、利用者の声が十分に反映されないまま廃止・移行の方針が進められることは到底納得できるものではありません。

3. 請願の理由

①これまでの経緯と問題点

（1）2026年9月19日 ハートフルにおける利用者説明会について

当該説明会では、地域2型を廃止し、3型へ移行する方針が示されました。これに対し、利用者からは3型への移行に反対する声が上がり、3型への移行がすでに決定してい

茨木市
障福
-8.11.10
受付

るのかについての確認がありました。市は、3型への移行はまだ検討中であり、決定したことではないこと、今後慎重に審議していくとの説明がありました。そのため、利用者としては、反対意見も踏まえて慎重に検討されるものと受け止めていました。

（2）2026年10月14日 障害者施策推進分科会及び同専門部会について

しかし、説明会後の障害者施策推進分科会及び同専門部会が10月14日に開催されましたが、部会では、説明会で示された資料と全く同じ内容の地域2型を廃止し、3型へ移行する資料が提示され、説明会での利用者からの反対の声や、[redacted]が9月15日に市長と分科会会長宛に提出した要望書も全く紹介されず、その結果、当該観点からの議論も全くされず、完全に「無視」という形となりました。これでは、十分な議論もないまま、3型への移行を進めようとしているのではないかと不信・不安を感じています。

利用者からの反対意見が存在する以上、単に案を提示して検討を進めるのではなく、利用者の意見を正式に受け止め、専門部会及び推進分科会において十分に議論する必要があります。

たたき台の段階で反対意見が十分に取り上げられず、利用者の声が反映されないまま計画が決まり進められるのであれば、当事者に寄り添った検討とはほど遠いものであると言わざるを得ません。

利用者から反対の声が上がっている事実を明確に共有し、「廃止・移行」ありきではなく、利用者の立場に立った議論を行うことを求めます。

②専門的なリハビリ機能の維持について

「リハビリ機能を残す」と説明されても、専門的な支援を行わないならば、これまで利用者が受けてきた支援の質や内容が維持されるのか、大きな懸念があります。

利用者の身体機能を継続的に評価するのであれば、その評価を実際の支援につなげる専門性が必要です。

専門的なリハビリ機能が失われることによって、身体機能の維持が難しくなったり、日常生活に支障が生じたりする利用者が出ることを危惧しています。

単にリハビリという名称や機能を残すだけではなく、専門的な知識と技術に基づく支援を継続できる体制を確保することを強く求めます。

③利用者の声を反映した審議の必要性について

ハートフル2階の地域2型は、利用者にとって単なる施設サービスの一つではありません。身体機能を維持し、日常生活を継続し、自分らしい生活を送るために必要な支援の場

です。今回の「廃止・移行」検討は、利用者の私たちにとっては、日本国憲法が保障する基本的人権＝生存権の侵害であると言っても過言ではありません。

制度や運営方針の変更を検討する際には、行政や運営側の都合だけで判断するのではなく、実際にサービスを利用している障害者の生活と将来を第１に考えるべきです。

利用者から反対の声が上がっている以上、その声を軽視することなく、十分な審議と説明を行う責任があると考えます。私たちは、ハートフル２階の「地域２型」の廃止及び「3型」への移行案について強く反対すると共に、利用者の意見を十分に聞き、専門的なリハビリ機能を維持し、これまで通り地域２型を利用できるよう、誠意ある対応と再検討を強く求めます。

今回、単なる申入書ではなく、憲法第16条「請願権」と「請願法」に基づく当該「請願書」を提出するのは、以上の理由からです。請願法第５条「請願の処理」すなわち「この法律に適合する請願は、官公署において、これを受理し誠実に処理しなければならない」の最低限の具体的対応として、各分科会委員への請願書の配布と審議、文書による回答を求めるものです。

4. 請願項目

以上を踏まえ、次の６項目を請願します。

①地域２型の廃止及び３型への移行案を再検討すること。

②利用者の反対意見を推進分科会で正式に審議すること。

③推進部会において利用者の声を直接聞く機会を設けること。

④専門的なリハビリ機能と支援体制を維持すること。

⑤これまで通り地域２型を利用できるようにすること。

⑥利用者への説明責任を果たすこと。

以　上

2026年9月15日

茨木市長　様
茨木市総合保健福祉審議会 障害者施策推進分科会会長　様

[redacted]

抗議・要望書

ハートフル２階「地域２型」の存続と充実、障害者の生活・社会参加・災害時の避難拠点としての必要性について

私は、ハートフル（障害者センター）２階の「地域２型」について、その必要性と、もし地域２型がなくなったり、縮小・統合した場合に私たち障害者の生活にどのような影響があるのかを、利用者の立場からお伝えし、存続および今後の具体的な対応を強く要望します。

1. はじめに

地域２型は、単なる通所サービスではありません。私たちにとっては、リハビリを行う場所、入浴を利用する場所、一日を安心して過ごせる場所、他者との交流を持つ場所、社会とのつながりを維持する場所、外出や社会参加を続けるための基盤、災害時に避難できる場所、そして障害者同士が助け合える場所でもあります。

したがって、地域２型の廃止・縮小・統合は「一つの福祉サービスがなくなる、利用しづらくなる」という単純な問題ではありません。障害者の生活そのものが大きく変わり、場合によっては社会的孤立や災害時の安全確保、さらには命に関わる問題になると考えています。

茨木市
障福
-8.9.15
受付

2. ハートフルがつくられた経緯

過去を振り返ると、バブル期に障害者センターを建設する計画がありました。当時、私は[redacted]病院に入院しており、その計画を知りました。その際、市の職員や議員の方が病院まで来てくださり、私の病気や障害について話を聞いてくださいました。

リハビリ施設、トイレ、入浴設備、風呂介助、施設の環境などを見学していただき、リハビリ担当者からも説明を受けました。私は、「重度の障害がある人でも利用できる施設にしてほしい」「障害の種類に関係なく利用できる施設にしてほしい」「高齢者も利用できる施設にしてほしい」と要望しました。

障害者が安心して利用できる施設をつくってほしいとお願いし、その後にできたのが現在のハートフルだと認識しています。だからこそ、「障害者のためにつくられたハートフルとは、一体何のためにつくられた施設だったのか」と、今あらためて問いたいと思います。

3. 地域２型が果たしてきた役割

ハートフル２階の地域２型は、リハビリを必要とする重度障害者などが、自分自身のペースでリハビリを行いながら、一日を過ごすことができる場所として大きな役割を果たしてきました。また、地下には入浴設備があり、入浴が困難な障害者にとって非常に重要なサービスです。

利用者には、リハビリを継続する方、入浴サービスを利用する方、障害が進行し医療的ケアが必要な施設への入所を待ちながら利用する方、高齢になり介護保険へ移行する方、障害や病気が進行し利用できなくなった方など、さまざまな事情がありました。障害の進行や病気によって亡くなられた方もいます。

そのため、年々利用者数が減少していること自体は事実です。しかし、「利用者が減ったこと」と「地域２型が必要なくなったこと」は同じではありません。

4. 生活介護は地域２型の代替とはならない

ハートフルが長年行ってきた、地域２型（リハビリ）や入浴事業は、生活介護のような長時間滞在をするのではなく、リハビリが終わればすぐに帰宅ができ、入浴が終われば送迎してもらえるなどの個別の対応をしてもらい大変助かっています。生活介護ではそのような柔軟な対応ができなくなります。

したがって、もし、地域２型の生活介護への統合といったことを考えておられるならば、「生活介護は地域２型の代替とはならない」ことを強調いたします。

5. 利用者が減っているのであれば、まず「知らせる努力」をしてほしい

私は以前から、ハートフルや地域２型の存在を、もっと多くの障害者や家族に知ってもらう必要があると考え、利用者からも宣伝させてほしいとお願いしました。

しかし、障害福祉課からは「宣伝している」と説明される一方で、実際には茨木市に住んでいる障害者や家族に十分な情報が届いていないと感じています。茨木市の広報に地域２型を掲載してほしいとお願いしましたが、「掲載できない」と言われました。

現在、ハートフルについてインターネットで調べても、生活介護についての情報は目に入る一方で、地域２型について十分な情報が掲載されていないように感じます。必要としている人に情報が届いていないのであれば、まず情報を届ける努力をしていただきたいです。

6. 地域２型をなくすことは「社会参加の機会」を奪うことにもなる

私たち地域２型の利用者は、ハートフルに一日通って過ごし、その帰りに買い物をしたり、自分自身の用事を済ませたりすることができます。障害者にとって「自分で外へ出ること」は、社会参加であり、自立した生活につながっています。

地域２型の廃止・縮小・統合は、単に通う場所が一つなくなるだけではなく、外出する機会そのものが減ってしまう可能性があります。さらに、ガイドヘルパーも人手不足です。地域２型がなくなったりした場合、誰が私たちを外へ連れて行ってくれるのでしょうか。役所の職員や審議会の委員さん、議員の方が一人ひとり対応してくださるのでしょうか。現実的には不可能です。

7. 地域２型がなくなれば、社会的孤立につながるのではないか

障害者センターをつくっていただいたにもかかわらず、「地域２型の廃止・縮小・統合」「入浴サービスもなくなるあるいは利用しづらくなる」となれば、「何のために障害者センターをつくったのでしょうか」と疑問に感じます。

障害者が外へ出る機会を減らし、家に閉じこもらざるを得ない状況をつくることになれば、それは社会的孤立につながる可能性があります。障害者が地域社会の中で生活し、外出し、人と関わり、自分の用事を済ませるための環境を整えることが、バリアフリーや社会参加を推進することではないでしょうか。

8. 災害時におけるハートフルの重要性

私が地域２型の存続・充実を強く求めるもう一つの大きな理由が、災害時の避難場所としての必要性です。阪神・淡路大震災を経験し、一般的な避難所が障害者にとって必ずしも安全で利用しやすい場所ではないことを実感しました。

学校などの一般避難所には、段差が多い、車椅子で移動しにくい、トイレの利用が困難、入浴できない、衛生管理が難しいといった問題があります。これは障害者だけでなく、高齢者、小さな子ども、妊婦などにとっても大きな負担になります。

9. 自宅からハートフルまでの避難ルートを自分自身で確保した

障害福祉課から、災害時に備えて、自分自身で避難場所を決め、避難ルートを確保しておくよう指導を受けました。

そこで私は約２年かけて、日曜日にガイドヘルパーを利用して外出し、自宅からハートフルまで実際に移動しながら避難ルートを確認し、ＡからＨまで８つの避難ルートを作りました。

その後、ハートフルの所長および２階地域２型の責任者にも避難場所の確保について説明し、ハートフルへ避難することについて了承を得ました。このことについては、障害福祉課にも伝えています。

10. ハートフルは災害時の避難拠点として非常に多くの機能を持っている

ハートフルには、災害時に必要となる設備があります。2階にはリハビリ用のマットがあり、重度障害者や高齢者などが身体を休めたり、必要な支援を受けたりすることができます。

また、バリアフリーのトイレ、地下の入浴設備、洗濯機、乾燥機、障害者の介助に必要な設備などがあります。さらに周辺にはクリニック、水道局などがあり、援助物資を届けることができるグラウンドもあります。市役所にも近い場所です。

このような環境を考えると、ハートフルは災害時に配慮が必要な人を受け入れる場所としても非常に可能性のある施設だと思います。

11. 北摂地震の際にハートフルが開放されなかったことへの疑問

北摂地震が発生した際、障害福祉課がハートフルを避難場所として開放しなかったことについて、私は大きな疑問を持っています。実際に困っていた障害者もいたはずです。

障害者のためにつくられたハートフルに、避難を必要としている障害者がいるにもかかわらず、なぜ避難場所として開放されなかったのでしょうか。その理由を明確に説明していただきたいです。また、災害時にハートフルをどのように活用するのか、具体的な計画があるのかについても説明を求めます。

12. 「生活介護の利用者を職員が車で迎えに行く」という方法は現実的なのか

ハートフルの所長から、災害時には生活介護の利用者をハートフルの職員が車で迎えに行くという話がありました。しかし、私は現実的には非常に難しいのではないかと考えています。

災害時には、道路が通れない、渋滞する、信号が止まる、車が使えない、建物が倒壊する、職員自身が被災する、職員が施設まで来られないなど、さまざまな可能性があります。

地域２型の職員も人手不足の状況にあり、通常から生活介護の手伝いをしています。生活介護の職員も遠方からそれぞれ別々に通勤している方がいます。そのような状況で、災害が起きたら職員が車で利用者を一人ひとり迎えに行くという方法を本当に実行できるのでしょうか。

13. 地域２型利用者には「自分で避難できる」という大きな強みがある

地域２型の利用者は、普段からヘルパーと一緒に自宅からハートフルまで移動しています。そのため、自宅からハートフルまでの道を知っています。

私自身も約２年かけて８つの避難ルートを確認しました。これは地域２型を普段から利用しているからこそできたことです。

災害時には、「職員が迎えに来るまで待つ」のではなく、「自宅から自分が普段通っている場所へ避難できる」ということが大きな意味を持ちます。これは地域２型の大きな強みです。

14. 地域２型利用者は、災害時には「支援を受ける側」だけではなく「支援する側」にもなれる

地域２型の利用者や、普段から障害者を支援しているヘルパーには、車椅子からの移乗、トイレ介助、身体介助、入浴介助、障害者への対応などの知識があります。

ハートフルに地域２型利用者とヘルパーが避難できれば、重度障害者、高齢者、妊婦、小さな子どもを抱える家族などに対して、できる範囲で支援することも可能です。

さらにハートフルには機械浴などの入浴設備があり、洗濯・乾燥もできます。災害時には衛生面が非常に重要になります。だからこそ、地域２型とハートフルの存在は、災害対策とも大きくつながっています。

15. 「避難場所に指定されている」だけではなく、「実際に機能するのか」を考えてほしい

各自治体では、障害者施設、老人ホーム、デイサービスなどが避難先として設定される場合があります。しかし、「避難場所として指定されていること」と「災害時に実際に機能すること」は別の問題だと考えています。

施設には、もともと利用・入所している方がいます。その方々への対応が最優先になる中で、外部から避難してきた障害者をどの程度受け入れ、どのように介助し、トイレ・入浴・衛生面まで対応できるのか、具体的に検証していただきたいです。

16. 地域２型がなくなったり縮小・統合されたら、私たちはどこへ避難すればいいのか

地域２型がなくなったり縮小・統合された場合、私たちはどこへ避難すればいいのでしょうか。私は、自宅からハートフルまでA～Hの８つの避難ルートを確認しています。ハートフルの職員や所長にも相談し、避難場所として利用することについて了承を得ています。

これは私にとって、災害時の大切な備えです。地域２型がなくなったり縮小・統合されれば、この避難計画そのものが意味を失ってしまいます。地域２型をなくしたり縮小・統合された後、私たちはどこへ避難すればいいのでしょうか。その具体的な代替避難場所と、そこまでの避難方法を茨木市として示していただきたいです。

17. 地域２型と入浴サービスの廃止・縮小・統合の影響

地域２型を利用している人の中には、ハートフルで一日を過ごし、入浴を利用して帰宅している人がたくさんいます。地域２型だけではなく、入浴サービスも私たちの生活を支える大切なサービスです。

もし「地域２型や入浴サービスがなくなるあるいは縮小・統合」となれば、リハビリができなくなる、入浴ができなくなる、外出する機会が減る、社会とのつながりが減る、家に閉じこもる時間が増える、身体機能を維持する機会が減る、そして災害時に避難する場所まで失われる可能性があります。これは、障害者の生活を根本から変えてしまう問題です。

18. 茨木市に求めること・最後に

私は茨木市に対して、以下のことを強く要望します。

① ハートフル２階の地域２型を廃止・縮小・統合しないこと。

② 利用者数だけでなく、重度障害者、高齢化した障害者、入浴やリハビリを必要とする方、災害時の避難拠点としての役割まで含めて評価すること。

③ 茨木市広報、市ホームページ、障害福祉関係機関等を通じて、地域２型の存在と利用できるサービスを分かりやすく周知すること。

④ 地域２型を本当に必要としている人に情報が届いているのか調査すること。

⑤ ハートフルを災害時の障害者避難拠点として具体的に検討すること。

⑥ 地域２型利用者の避難ルートを災害対策に活用すること。

⑦ 地域２型を「利用者数」だけで評価せず、生活維持、身体機能維持、入浴、衛生管理、社会参加、災害時の避難・支援拠点として総合的に評価すること。

私は、地域２型を残してほしいという単なる個人的なお願いをしているのではありません。これまで地域２型を利用してきた一人の障害者として、「この場所がなくなったら、私たちの生活はどうなるのか」という現実的な問題を訴えています。

地域２型を廃止・縮小・統合するのであれば、その後の代替サービス、入浴、リハビリ、外出支援、社会参加、そして災害時の避難場所について、具体的な計画を示してください。

また、地域２型の廃止・縮小・統合によって私たちの生活に重大な支障が生じる場合、茨木市としてどのように責任を持って対応するのかについても、明確な回答を求めます。

私たちが安心して地域で暮らし続けるために、ハートフル２階の地域２型を存続し充実させていただくことを、強く要望いたします。

以　上